変な家　あらすじとネタバレと感想

〇あらすじとネタバレ
オカルト動画の配信で生活しているYoutuberの雨宮。しかし再生数は伸び悩んでいた。そこにマネジャーの柳岡が自分の引っ越し先候補としてある物件の間取り図を持ってくる。駅近で中古とはいえ築 1 年、周辺と比べても破格の物件に意気揚々とする柳川。雨宮は一風変わった建築家の栗原にこの物件の相談をする。栗原は開口一番「自分なら買わない」と即答。理由はまずキッチンに謎のスペースがあること、2階子供部屋が2重扉の中にあり専用のトイレまである事でまるで監禁部屋のような仕様であること、窓がなく周囲から様子が見えないようにしていることなど不可解な事が多い点をあげる。
その後雨宮は子供部屋の真下がキッチンの謎のスペースと重なっている事を発見、再度栗原に相談するする。栗原は子供部屋から謎のスペースへおり、そこから2階浴室に登れる、そして誰にも見られず浴室で客人を殺害する事が出来る、また別の通路からガレージに行き死体を遺棄する事が出来る、つまりこの物件は殺人のために作られた家であると仮説を立てる。
調べを進める雨宮のもとに柳川より「あの物件の近くで死体が発見された。あんな物件買うか」と電話が入る。そして何故かその死体には左腕がなった。
この内容を配信した雨宮は大バズり。その配信を見たある女性が、その見つかった死体は自分の夫である、また似たような不思議な物件で夫が殺されたかもしれない、と雨宮に相談に訪れる。
雨宮とその女性で柳川が間取り図を持ってきた変な家に侵入。捜索していると間取り図通り二重扉の中に子供部屋があり、そのフロアには激しく引っ掻いた爪痕が多数残されていた（監禁による拘禁症状と思われる）。子供部屋の捜索を続けると本当に隠し通路を発見、そこで栗原より電話が入る。栗原が調べた結果、殺害された男性に婚姻歴はない、つまり今一緒にいる女性はどこの誰か素性のわからない女性あると告げられる。恐怖を覚えた雨宮は女性を振り切り逃走。
そんな雨宮のもとに再度その女性が現れる。
その女性は雨宮に深く謝罪。実はその女性、片桐家という大財閥の娘で柚希という名前だった。片桐家の本家もまた変わった間取りであったため、柚希は失踪した姉を探すこと、また失踪した姉の原因は片桐家の謎にあると考えたことで、その謎に挑むため雨宮に近づいたのだった。
片桐家の本家を訪れた雨宮、柚希。後に栗原が合流。本家屋敷にも隠れ通路がある事を発見。そこで柚希の姉、片桐綾乃とその夫片桐慶太と再会、真相を打ち明けられる。
財を成した片桐家当主は使用人の潮との間に子供が出来る。当然これをよく思わなかった正妻は妾の潮を虐待、結果潮は流産する。発狂した潮は激しい自傷のうえ自ら左腕を切断し絶命する。その後片桐家の子供はみな左腕がなかったり、不審な死を繰り返したりするよう

になる。潮の呪いと判断した片桐家は毎年人間の左腕を収める左手供養の儀式を行う。
人間を殺す実行役には生まれてから一切日の光を与えないで監禁して育てた子供とした。
片桐家の綾乃そしてその夫の慶太は血の繋がらない赤ん坊（桃弥）を預かり、その赤ん坊を次代の実行役に育てるように命じられる。
同じような「殺人部屋」を作る事を条件に村を出た綾乃と慶太。後に自分達の子供も生まれ4人で暮らすようになる。いくら血の繋がらない子供とはいえ桃弥に殺人を犯させたくない綾乃夫妻はいざという時に桃弥を隠す（避難）ためにあの間取りの家を建てたのだった。
一年目の左手供養の儀式が近づいた時、偶然心筋梗塞で亡くなった知人の左手を切断、片桐家の収めた事で乗り切るが、2年目はどうしようもない。その時、何故か片桐家に左手が治められる。不審に思った片桐家は綾乃夫妻を呼び出し薬を盛って洗脳、桃弥を監禁し現在に至る。
真相を知った雨宮達に対し、雨宮を今年の左手供養の犠牲者にしようと襲い掛かる本家と村人たち。
慶太の捨て身の行動で、桃弥を救い出し命からがら本家から逃げだした雨宮、柚希、栗原、綾乃、桃弥。公道に出た所で迎えに来た柚希、綾乃の実母、松岡喜江の車に乗り込み無事都内に戻る事に成功する。
雨宮は「結局この家の謎は解明できなかった」と配信し、この話を終わらせるのだった。
物語のラスト、ホームレス支援を行う松岡喜江の元にやって来る綾乃。「そろそろ左手供養の時期ね」という綾乃。「大丈夫、またお母さんが何とかしてあげるから」と自らが支援するホームレスに目を向けるのだった。

〇感想
書き出すと長くなるので端折りましたが、実際には本家の中で片桐家の親族で財産を狙う森垣清次とのバトル、そしてその森垣を殺害し左手を切断、供養に捧げる現片桐家当主の片桐重治、雨宮がけり倒した潮の祭壇のローソクが引火し本家が全焼、当主の重治、妻の文乃、森垣の焼死体が発見されるも、慶太の死体は発見されないなどのエピソードがありました。
感想でここまで書くなら本文に入れようかと思いましたが、何か上手くまとめきれなかったので、感想で紹介しておきます。
それでは感想ですが、ネットコミックスの無料で読める範囲で読んだだけで面白そうと思い全く下調べせずに観に行きました。ミステリー、サスペンスもの（金田一少年の事件簿やデスノート風）と思っていたのですが、まさかのホラー要素がぶっこまれてきました。いい年したおっさんがビクビクしながら観ている事を客観的に想像すると滑稽だなと思いつつも、思っていた内容と違うだけに余計に魅入られました。ホラー物も嫌いではなく、最近ではアマプラで「きさらぎ駅」なども観ましたし、学生時代はリングやアナザーヘブン等も観に行ってました。しかしホラーとわかっていくのと、わからないでいく（自分のリサーチ不足ですが…）のとでは心構えが違い、正直初めはメチャクチャ怖かったです。

雨宮（間宮祥太朗さん演）と栗原（佐藤二朗さん演）の掛け合いが面白く、特に栗原役が濃いなぁと思いました。こういうベテラン俳優さんが活躍すると一種の安心感があり、雨宮と柚希二人で本家に行った時は不安でしたが、栗原が合流すると何故か安心感が出ました。同じミステリー物でも「ある閉ざされた雪の山荘で」とはまた違った良さがありましたね。
ラストで柚希が雨宮にだけお礼を言い、栗原には声をかけず、栗原がボーっと雨宮を見るシーンはこれまで恐怖恐怖だっただけに解放された後の清涼剤のような笑処でした。
最後の最後で綾乃が未だ左手供養の洗脳から溶けておらず、また母である松岡喜江が自らが支援するホームレスを殺害する（というか左手供養のために支援者としてホームレスに近づいている可能性大）というエピソードはゾクッとしましたが、全ての映画がハッピーエンドである必要はないため、賛否両論ありそうですが、こういうラストもありと思いました。
いつも通り原作を読んでいない私は十二分に楽しめました。原作ファンの方々の感想も聞いてみたい所ですね。
最後にもし綾乃夫妻が本気で桃弥を大切に思っていたのであれば、なぜあの変な家の子供部屋のフロアに激しく引っ掻いたような爪痕が残っていたのかという謎が残されています。いわゆる監禁された事で起こる拘禁症状というヤツです。
仮説①としては、もし本家の人間が視察に訪れた場合の「本当にここに監禁していますよ」というアリバイ作りのため、わざわざ爪痕を残したという可能性があります。
仮説②は本当に監禁していたという可能性でこちらの方が本名です。何故なら実際に物語中で綾乃夫妻が出て行った（本家に連れ戻された）時に泣く義弟の赤ん坊をあやしに部屋を出る際、殺人用の仮面を着用していた事からも、「部屋から出てはいけない」と強く言われていた事実が伺えます。しかしこの場合でも周囲の人には三人暮らし（綾乃夫妻と赤ん坊）と言っており、もし桃弥の存在が周囲にバレれば桃弥が本家に監禁される（変な家の子供部屋どころか、牢獄のような劣悪な環境におかれる）ため、桃弥を守るために「部屋から出てはいけない」と言われていた可能性が高いと思われます。ですから本当に拘禁症状が出るほどの監禁だったか疑わしい所です。
本家から脱出する時、松岡喜江の運転する車の中で仮面を外した桃弥が綾乃に「お母さん」と泣きつき、綾乃も「もう大丈夫」と抱き寄せるシーンからその愛情は本物に見えますが…しかしラストシーンで洗脳から解けていない綾乃を見ると本当に桃弥を監禁、殺人の実行犯に育てようとしていたと考えると…桃弥の母親への愛情さえもコントロールするような洗脳を行なっていたとすると…
またゾクゾクするような感覚に陥ります。
この映画を観られた皆さんはこの「爪痕問題」をどのように考察するでしょうか…
いつも思うことですが、このように村人が主人公に襲い掛かってくるシーンを観ると、もし主人公がピーター・アーツみたいな人だったらどうすんだろうと思ってしまうのは私だけでしょうか？？